

『おもしろ暑中見舞いを出そう』の実践

札幌市立厚別通小学校 山崎 孝行

◆単元のポイント

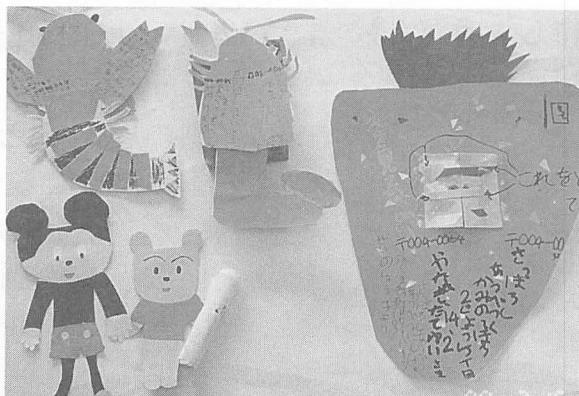
○手紙の楽しさや意味を感じ取る

指導要領の改訂により、手紙や電話などを用い伝え合う活動については、8項目の内容に関連して扱うことになっています。ここでは、郵便のシステムについて学ぶことがねらいなのではありません。気持ちや用件を伝える具体的な活動や体験の中から楽しさや意味を感じ取って、手紙を自分の日常生活にも取り込んでほしいのです。

○手紙を扱う活動の年間シリーズ化

そのために、生活科やその他の学習・行事に関連させながら、年間4回の手紙による応答関係を構成しています。そこでは、運動会や学習発表会の練習を振り返ったり、1学期の自分のがんばりや夏休みに向けての楽しみに思いを巡らせたりと、常に自分を中心において手紙を書くようにさせました。

○思いを伝える手段としての“おもしろ郵便”



また、シリーズ中2回（暑中見舞い・学習発表会招待状）は文面だけではなく形にも自分の思いを込めるようにしました。

これによって手紙というものを柔軟にとらえられるだけではなく、「おじいちゃんびっくりするかな」と受け取り手のことをイメージしながら活動に取り組むようになっていきます。

◆単元の目標

○情報・意思伝達としての手紙を自分の生活に生かし、生活を豊かにしていくこうとする。
(関心・意欲・態度)

○相手意識をもち、自分なりの意味付けをしながら手紙を書くことができる。
(思考・表現)

○手紙の楽しさや意味について実感することができる。
(気付き)

◆単元の構想（シリーズ12時間・『暑中見舞い』は4時間扱い）

①運動会のことをお知らせしよう（2）

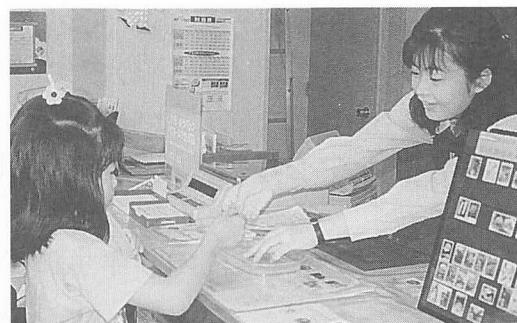
- ・応援しに来てくれた人にお礼の意味を込めて、自分のがんばったことなどを書くようにします。

③学習発表会の招待状を出そう（3）

- ・活動の動機付けに生かすため、暑中見舞いにもらった返事は教師が預かっておくとよいでしょう。
- ・練習の様子を振り返らせながら、自分の役や発表の内容に合った形を工夫させます。
- ・地域のお年寄りなどと交流のある場合は、そちらにも出すとよいでしょう。

②おもしろ暑中見舞いを出そう（4）

- ・6月下旬ころから“夏らしい”ものの・ことを見つけて朝の会などで紹介し合う中から『おもしろ暑中見舞い』を教師から提案します。
- ・暑中見舞いについて家族にインタビューさせると、その意味や内容も理解でき後々役立ちます。
- ・1学期の自分を振り返らせながら伝えたいことや印象に残ったことを形でも表現させます。



④年賀状を出そう（3～書写1時間含む）

- ・学年TTの形式で、イモ版画・ステンシル・パソコン等の中から選択させてオリジナルな年賀状を作ります。

◆実践するにあたって

- 学年便り等で保護者にも年間を見通したねらいを理解してもらい、返事を頂けるように相手方に連絡をとってもらうこともお願いします。
- もらった返事や宛名宛先のメモをファイルしておくと、次の活動の時にそこから自分で必要な情報を引き出していくようになります。
- “おもしろ郵便”は、観光地などで売られているものや教師の手製のものを紹介すると、子供もイメージをもちやすいようです。